



1年環境科学科・向陽中学生

青少年のための科学の祭典 2011 おもしろ科学まつり和歌山大会に出展



12月10日(土)・11日(日)の2日間、フォルテワジマにおいて“2011おもしろ科学まつり和歌山大会”が開催されました。

本校から「カルメ焼きを作ろう★」、「ストロンボーンをつくろう！～どんな音が出るかな??～」、「紙の神業～あなたは紙のホントの力を知らない!??～」、「プリンで科学～“固まる”不思議を考えよう～」、「不思議な空気の流れ」「-196℃の世界」というタイトルで7つのブースを出展し、1年環境科学科の生徒と向陽中学生が担当しました。化学変化の視点から身近な食べ物をみるブース、摩擦力や流体力学などを用いた不思議な現象について考えるブースなど、参加した多くの方々に、実験を体験していただきました。

参加生徒の感想より

「本と本のページを1枚1枚重ね合わせ、ブランコの接続部分にして、“摩擦力”のすごさを体験してもらいました。ページを重ね合わせるのは大変でしたが、完成の楽しみの方が勝っていました。子どもたちの“すごい”もうれしかったのですが、大人が本気でビックリするのを見て、やってよかったなと思いました。中学校の時から鍛えられてきた“説明力”。こういう場で発揮できてよかったです。“やってみようかな”という軽い気持ちで始めましたが、本当にやってよかったです。」「実験を考えるのも、準備するのも難しくなかったが、ベルヌーイの定理について幼稚園児や小学校低学年の子どもに分かるように説明するのが難しかった。用意した材料が足りなくなる程の人が来てくれて、うれしかった。」「ドライアイス、生クリーム、牛乳、砂糖の割合をたくさん試すのに準備段階で苦勞した。子どもたちに“すごい”と言われたり、保護者の方に“ありがとうございます”と言ってもらって、役に立てたんだととてもうれしかったです。“ドライアイスのけむりで、火が消える!”という不思議な現象の原因を考えてもらったりするのも楽しかった。」「実際に説明すると、少し緊張してしまって、言いたいことがうまくまとまらなくて大変でした。準備や発表は大変ですが、子どもたちの顔が輝いていて、楽しかったです。」「本当によい経験になるし、説明力がつくと思うので、ぜひ来年の1年生もやってほしいです。」「来年の1年生のみんなにもできるだけ参加してもらって、小さな子どもたちが向陽を目指してくれるような、楽しくて驚くような実験をたくさんしてもらえたらうれしいです。」



第55回日本学生科学賞県審査、2組が受賞

読売新聞社賞

「レタスの発芽生長に対するアレロパシーの影響について」

県商工会議所連合会長賞

「河川水質の化学的浄化について～リン酸汚染水の浄化について～」



11月19日(土)、第55回日本学生科学賞県審査の表彰式が、読売新聞和歌山支局で行われました。

本校からは、昨年度の研究で、生物ゼミと化学ゼミの2グループ(現3年)が受賞しました。

生物ゼミの「レタスの発芽生長に対するアレロパシーの影響について」グループは読売新聞社賞を、化学ゼミの「河川水質の化学的浄化について」グループは県商工会議所連合会長賞をそれぞれ表彰されました。

